

令和5年8月17日

大在圏域

医療・介護関係者 各位

大分市連合医師会 在宅医療部 代表 木下 昭生
大在 地域包括支援センター センター長 藤本 修士

令和5年度 大在圏域 地域連携検討会の開催及び事前アンケートへの協力について(案内・依頼)

立秋の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より在宅医療・介護連携推進事業並びに地域包括支援センター業務にご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、大在圏域包括支援センターと大分市連合医師会は、圏域の在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出とその対応策等を検討するため、毎年、医療・介護関係者等が参画する地域連携検討会を共同で開催しており、本年度も下記のとおり開催いたします。

つきましては、圏域内の皆様の相互理解とネットワークづくりの機会としてもご活用いただければと考えておりますので、ご多用中とは存じますが、多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

参加を希望される方は、9月12日(火)までにFAXにてお申込みください。

また、検討会に先立ち、皆様に災害への取組等についてお伺いしたいと考えておりますので、お手数をおかけし恐縮ですが、別紙アンケートにご記入いただき、8月28日(月)までにFAXにてご返送いただけますよう、併せてお願い申し上げます。当日検討会に参加できない方もアンケートへのご協力をいただけますと幸いです。

なお、今年度より会場開催を再開いたします。感染症対策につきましては、各自のご判断でお願いいたします。

以上、ご不明な点等がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

記

- 1 日 時 令和5年9月21日(木) 18:30～20:00
- 2 会 場 大在公民館 研修室
- 3 対 象 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、相談員、介護支援専門員、栄養士、歯科衛生士、リハビリ職、ホームヘルパー、その他 医療機関・介護事業所関係者
- 4 内 容 「災害発生時の横の連携を考える」
詳細は同封のチラシをご覧ください。
- 5 大在圏域

大在	大在中学校区	大在 小	曙台 大在中央1丁目の一部・2丁目 大在浜 汐見 竹下 政所 横田 横塚 大字北(横田) 大字城原 大字竹下 大字浜 大字政所 大字横田
		大在 西小	青崎 大在中央1丁目の一部 大在北 志村 庄境 須賀 角子原 角子南 望みが丘 花江川 大字志村 大字角子原

【お問い合わせ先】

大分市連合医師会 在宅医療部
大分市在宅医療・介護連携支援センター
担当：出納(すいどう)・岩本
TEL：097-529-7851

大在圏域地域連携検討会

地域包括支援センターと大分市連合医師会は、圏域の在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出とその解決策等を検討するため、医療・介護関係者等が参画する「地域連携検討会」を共同で開催しています。

災害発生時の 横の連携を考える

近年、全国各地で甚大な風水害が多発し、地震も頻発しています。こうした中、介護施設・事業所においては、今年度中に業務継続計画（BCP）の策定が義務付けられており、災害対策の必要性を強く感じております。大在圏域では、平成30年度にも「災害への備え」をテーマに地域連携検討会を開催しましたが、今回は、災害発生時に医療・介護を必要とされている方を支援するために、事業所等関係者がスムーズに連携するには何が必要かを皆さんで検討できたらと考えております。

日時：令和5年9月21日（木）18:30～20:00

18:30～18:45 挨拶・現状報告（アンケート結果）

18:45～19:05 講話

19:05～19:40 グループワーク

19:40～20:00 発表・講評

内容：●講話「避難所の開設・運営について（仮）」

講師：大分市福祉保健部 福祉保健課 社会福祉担当班
避難所がどのように開設・運営されるのか、などお話しいただく予定です。

●グループワーク

講話にて避難所や災害発生時の行政の動きを知ったうえで、何が問題で、どのように連携する必要があるのかを皆さんで話し合ってみましょう。

開催場所：大在公民館 研修室

※新型コロナの感染状況によっては開催方法をzoom開催に変更することがあります。

zoom開催に変更の際には、9月15日（金）に出欠票にご記入いただきましたメールアドレスへご連絡をさせていただきます。

**申込方法：「第8回大在圏域 地域連携検討会 出欠票」にご記入
のうえ、9/12（火）までにFAXにてお申し込みください。**

※「災害に関するアンケート」の締め切りは8/28（月）と早くなっております。

お手数をおかけしますがアンケート回答へのご協力もお願いいたします。

大在地域包括支援センター

大分市在宅医療・介護連携支援センター
＜大分市連合医師会在宅医療部＞

お問い合わせ・お申込み先

大分市在宅医療・介護連携支援センター

TEL:097-529-7851 FAX:097-529-7872

E-Mail : zaitaku@oitamd.com

<https://oita-renkeishien.jp>





第8回 大在圏域 地域連携検討会 出欠票

1 検討会に (参加 ・ 欠席) します。

2 所属機関・所属事業所

名称 : _____

TEL : _____ FAX : _____

3 参加者

氏名	職種	Zoom 変更時の参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加

※新型コロナウイルス感染症の感染状況により開催方法を zoom に変更することがございます。
Zoom 開催に変更となった場合は、9月15日にご記入いただきましたメールアドレスにご案内をさせていただきます。

メールアドレス : _____

※ 誤記等がないかご確認の上、アルファベットは、大文字と小文字が判別できるように記入してください。
次の文字、数字、記号が入る場合は、矢印で下にかたかなを補記してください。

記入例 〇 0 1 ① - _

 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

 オー ゼロ イチ エル ハイフン アンダーバー

【当日のご案内】 連絡先: 070-2336-1357 (大分市 在宅医療・介護連携支援センター)
会 場: 大在公民館 研修室
日 時: 令和5年9月21日(木) 18:30~20:00

会場で 皆さまのお越しをお待ちしております。(大分市在宅医療・介護連携支援センター、大在圏域包括支援センター)

災害に関するアンケート

貴事業所の業種を教えてください。(該当するものに○をつけてください。)

- 医療機関 薬局 居宅介護支援事業所 訪問系: 訪問看護 訪問介護
通所系: デイサービス デイケア ショートステイ
入所系: 特養 老健 介護医療院 グループホーム その他()

1. 事業所として、どのような防災対策・避難訓練を行っていますか？

(該当するものに○をつけてください。複数選択可)

- 避難経路の準備 利用者家族や職員への連絡網確認
 非常持出し品、備蓄品等の準備(例:食料等の物品、利用者の情報等)
 役割分担の確認 大在地区の危険箇所やハザードマップの確認
 研修や講話等の受講 地域の避難所の見学、体験
 行っていない
 その他()

2. 貴事業所がある地域の防災訓練や避難訓練に参加したことがありますか？

(該当するものに○をつけてください)

- 参加したことはない 職員が参加したことがある
 事業所として皆で参加したことがある その他()

3. 勤務中に災害が起きた時、貴事業所としては何が心配、不安ですか？

(該当するものに○をつけてください。複数選択可)

- 避難経路の確認ができていない
 非常持出し品等の準備ができていない(例:食料等の物品、情報)
 利用者家族や職員への連絡方法 職員の役割分担の確認
 どこから情報収集をすればよいかわからない
 初動対応が迅速にできるか 初動期の役割・動きが分からない
 患者や利用者・家族への対応方法 事業所が被災する可能性
その他、自由にお書きください

()

4. 業務継続計画(BCP)策定の進捗状況について

(最も近いもの一つに○をつけてください。)

- 策定済である
 策定中である
 未着手(策定に向けた情報収集等、準備中)
 策定のための研修のみ受講済み
 何もしていない
 BCP 自体を知らない

ご協力ありがとうございました。

昨年度の検討会で参加者から次のようなご意見をいただきました。



R4 検討会テーマ

「認知症予防について私たちにできること～地域住民の理解を得るために～」

地域で認知症の予防や理解を得るための普及啓発を誰が、誰を対象に、何をすると良いと思いますか？

●認知症サポーター養成講座

- ・キャラバンメイトが企業、教員、学生、高齢者を対象に認知症サポート養成講座を開催。
- ・訪問事業所が利用者や家族、近隣の方を対象に認知症サポート養成講座を紹介するなどして普及啓発活動を行う。
- ・YouTubeなどで視聴できるようにし、大分市がiPadなどの貸出しをして環境を整え認知症の教育を行う。

●認知症の方の子供世代、孫世代の方に働きかける。

- ・講習を自発的に受けるのは難しいので、端末で見られるようにしたり日常生活の中で目に触れる形が有効ではないか。
- ・行政の方が学校に訪問して学生に対して認知症の研修を行い若いうちから学んでもらう。
- ・高齢者（認知症高齢者も含む）と小学生の交流活動で認知症でも普通に生活できることを理解してもらう。

●その他

- ・認知機能チェックやテストのポスターを作成し、患者さんの目につくところに貼っておき自分でチェックする。おかしいかなと思ったら相談先をお伝える。
- ・認知症認定看護師等が地域住民に対して出前講座で講義や体操などを実施。

それぞれの立場でどういった方法で地域住民への普及啓発に向けた関わりができそうですか？

- ・患者が急に薬を飲まなくなる、できていたことができなくなったと言われることがあり、家族に相談して対策を練る。早めに気づいてもらうこと。【医師】
- ・受付にチラシを置く、きっかけになるものを渡す、スライドを見ってもらうなどのアプローチはできるかと思う。【歯科医師】
- ・啓発のポスターやパンフレットを分けていただければ薬局内に配ったりできると思う。【薬剤師】
- ・利用者家族や必要だと思われる方に、勉強会や話ができる場所があるという情報提供、発信していくこと。利用者や家族に気になることを聞き主治医やキーパーソンに報告している。【看護師】
- ・認知症ではないかと思うことがあった場合は受診を勧め、対応した生活を送れるようにする。【介護支援専門員】
- ・軽度の方や認知症が疑われる方に関しては、一緒に来た家族に伝えている。【理学療法士】
- ・チェック項目があり状態が分かるものを家族に配布できると普及や発見につながる。【ホームヘルパー】
- ・高次機能障害の方に相談先や症状についての家族指導をおこなう際に、認知症の案内を渡し認知症を知ってもらう。【医療ソーシャルワーカー】
- ・施設通信やチラシを本人・家族に配布。担当者会議で受診の必要があれば繋げられるような助言。【生活相談員】
- ・大在健康支援室では紙面を使っただけの広報。各自治区の健康推進員を通して認知症の普及啓発。【保健師】

少しずつ出来そうなところから取り組みます。
認知症サポーター養成講座申し込みのチラシを
一部の薬局等に置かせていただいています。



認知症への取り組みは今後も継続していきますので、よろしくお願いいたします。